

# 巻頭言

支部長 新屋 保則



私の住んでいる上富良野町・・・  
遠くに十勝岳連邦の山姿を眺めることが出来、  
山頂部には冠雪が見られます。  
11月に入るとほぼ農作業も終え、冬を  
迎える準備に入ります。  
(私の場合、息子夫婦に任せています。)

日ごろ、会員の皆様、ご支援ご協力を頂いております皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年は新型コロナウイルスが猛威を振るって、私たち ALS 患者にはとても驚異です。

お陰様で今のところ会員の皆様が感染したとの報告がないのが何よりですが、まだまだ収束には時が掛かるようです。

どうぞ、ワクチンが出来るまで、通院等には充分留意されて新しい生活様式でお暮らし下さい。

7月京都において、囑託殺人事件で ALS 患者の女性が亡くなるというなげかなしい事件が起きました。

日本 ALS 協会のホームページには、この事件に関するコメントが発表されています。協会として「尊厳死」の法制化には反対する立場ということです（この絆で紹介しています）。

尊厳死（安楽死）について、この事件を契機に様々な議論が再燃しているところがありますが、この問題には正解がありません。

また、自身の意思に反して、思いがけず緊急的に人工呼吸器を装着することがあります。一度、人工呼吸器を装着すると、誰一人、簡単に人工呼吸器を取り外すことが出来ないと聞きます。

外すと殺人犯として処罰されることがあり、過去において、このような事件が起きています。

私も ALS 患者の一人として、ALS 患者初め難病患者の苦悩も充分理解することが出来ます。人間には、この世に生命を受けたときから、生き抜いて行くための試練が待ち受けていると思います。人々はそれらに立ち向かって、心に希望や夢を持ち日々を過ごしているのではないのでしょうか。

私が前支部長杉浦様の意思をついでから、6 か月に成ります。新型コロナウイルスの影響で、北海道支部の定期総会（交流会）、運営委員会、喀痰吸引研修等、中止になったものが多くあります。

絆サロンにつきましては、皆様の計らいで規模を縮小（事前予約）して実施することが出来ました。普段の 1/3 の 10 名位の参加ですが、介護の在り方や、ケアプラン、ALS に関する事全般を経験されている方の説明は、患者、家族様の支えに成る事ことになると確信しています。それが絆サロンです。

北海道支部長としての無力さを申し訳なく思っています。

北海道支部は日本 ALS 協会、各県支部、北海道難病連様と連携し患者さんと家族の皆様が少しでも安心して暮らせる事ができるようにと考え活動しています。

どうぞ、患者や家族の皆様が、新型コロナウイルス、インフルエンザ等に罹らないように願っています。